

TOKYO2020へ、そしてその先に

Presented by 盛岡広域スポーツコミッション

盛岡市 八幡平市 滝沢市 雫石町 葛巻町 岩手町 紫波町 矢巾町



イラスト/風見緑哉

オリンピックの誇りを胸に

「TOKYO2020でたくさんの岩手ゆかりのアスリートを応援したい」
私たちの願いは通じた。選ばれしアスリートたち、いざ夢の舞台へ。



特別な夏がはじまる。

「私たちアスリートはオリンピックに出るためずっと頑張ってきました。ですが、コロナ禍でオリンピックの中止を求める声が多いことは仕方なく、当然のことと思っています」

池江璃花子さんの悲痛なつぶやきは、私たちに、オリンピックとは何か、を改めて問いかけています。

オリンピックの開催は安全安心な環境の確保が大前提だ。スポーツを愛し4年に一度の平和の祭典を心待ちにしてきた私たちは、その環境が整うことを祈るしかない。

世界最高峰の戦いは、オリンピックではなく世界選手権やワールドカップだと言う専門家がいる。間違いではないがオリンピックはそんな正論さえも超越する特別な舞台だ。そうでなければ、19歳の少女が白血病発症からわずか2年後に日本代表に復帰するなどという奇跡を起こせるわけがない。

復興五輪と位置付けられたTOKYO2020で、多くの岩手ゆかりの選手を応援するためスタートしたのがエイトオリンピック・プロジェクトだった。

思いは通じて、連続出場の高橋選手をはじめ既に7人が代表権を獲得し、1人が代表入りかけた最後の戦いに挑んでいる。

中でも佐々木千鶴選手(ライフル射撃)と吉田健人選手(フェンシング)は2016希望郷いわて国体の優勝者であり、思えばリオ五輪帰りの池江選手も日本記録で優勝している。レガシーはTOKYO2020に脈々と受け継がれているのだ。

2021年7月、岩手ゆかりのオリンピックたちにとって特別な夏がはじまる。



ライフル射撃女子ピストル

佐々木千鶴

2019年に行われた代表決定戦で落選し一度は諦めたオリンピックでしたが、延期されたことで巡ってきたチャンスをもにすることができました。目標を失った絶望感の中で自分を徹底的に見つめ直し、嫌いだっただラニングにも取り組んで心身両面の持久力がついたことが、この結果につながったのだと思います。

TOKYO2020では25メートルピストル(SP)と10メートルエアピストル(AP)に出場しますが、得意なのは精密射撃を競うAPです。ファイナルの8人に残ることができれば、メダルも見えてきます。

射撃の選手になりたいと思ったのは、小学生のときです。広島国体に選



profile

佐々木千鶴(ささきちづる)
1985年12月2日生まれ、盛岡市出身。岩手大学附属中学校、盛岡白百合学園高等学校を卒業して岩手県警に所属。2016希望郷いわて国体ライフル射撃10メートルエア・ピストル優勝。今年4月の代表決定戦で小西ゆかり選手(飛鳥交通)との激闘を制しTOKYO2020出場権を獲得した。

手として出場した父(佐々木正広氏。現岩手県警けん銃特別訓練部監督)を応援したのがきっかけでした。岩手県警に入って7年目の2011年にいわて国体に向けた選手の選考会に応募し、特別訓練員の指名を受け、練習に励みました。いわて国体は不思議と本番前から優勝するイメージが描けた大会でした。やはり地元開催は特別な力をもらったんだと思います。

大きな舞台で射撃ができる喜び、そして応援してくださる方々への感謝の気持ちこそ1発に込めて、最高のパフォーマンスを発揮してまいります。

吉田健人

フェンシング男子サーブル個人・団体



profile

吉田健人(よしだけんと)
1992年12月10日生まれ。両親の実家のある盛岡市生まれ、東京で育つ。東亜学園高等学校、法政大学を卒業して警視庁へ。2016年希望郷いわて国体団体優勝、2019年アジア選手権団体銅メダルなど輝かしい成績を挙げた。

私は東京育ちですが両親の実家のある盛岡で生まれ、夏休みや正月は毎年のように盛岡の祖父の家で過ごしていました。盛岡の豊かな自然とおいしい食べ物も魅力で、冷麺やじゃじゃ麺は今もお取り寄せています。

東京代表で出場した2016年の希望郷いわて国体では、団体優勝の喜びとともに地域が一つになったおもてなしの雰囲気を感じました。今回もエイトオリンピックズ・プロジェクトという形で岩手の皆さんに応援してもらっていることに、両親ともども心から感謝しています。

現在、自分も代表チームも良い調整ができていて、この流れで本番を迎えられると思います。フェンシングは番狂わせが起こりやすいスポーツです。私自身、2019年の世界選手権ではロンドン五輪・リオ五輪2連覇した本命を破り、日本人初のベスト16に進出することができました。オリンピックでは個人・団体に出場しますが、ストロングポイントであるスピード・瞬発力を活かしたフットワークと心理的な駆け引きに磨きをかけ、金メダル獲得を目指して精一杯頑張ります。

水本圭治

石川県小松市を拠点にカヤックフオア500メートルのチームメイトとともに長期合宿を続けてきました。TOKYO2020が1年延期されたことで4人の連携の精度が高まり、チーム力は確実に向上しています。個人的には、冬場のトレーニングでパワーアップし、大きな漕ぎ（動き）をキープできるようにになりました。恩師の小野先生（不來方高校監督）のお骨折りもあり、7月には慣れ親しんだ御所湖で代表の最終合宿を張る予定です。

コロナ禍での五輪開催に反対している方の気持ちもよく理解できるので、とても複雑な気持ちです。無観客あるいは観客制限の開催になったとしても、映像で応援してくださる人々の声援を受け取る気持ちで本番に向けてモチベーションを上げていきたいと思っています。

目標はメダル獲得です。高校でカヌーを始めてから17年、2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪とチャンスを逃し苦しい時期もありましたが、やっとここまでたどり着くことができました。本番ではカヌー人生で最高の漕ぎができるよう頑張ります。応援よろしくお祈りします。



profile

水本圭治(みずもと・けいじ)

1988年4月7日生まれ、矢巾町出身。矢巾町立矢巾中学校、岩手県立不來方高等学校、大正大学を卒業して、現在は長崎県の(株)チョープロに所属。全国高校総体カヤックシングルおよびペア500M、200M優勝(4冠)。2019年世界選手権で悲願のTOKYO2020出場権を獲得した。



profile

高橋英輝(たかはし・えいき)

1992年11月19日生まれ、花巻市出身。岩手県立花巻北高等学校、岩手大学を卒業して、現在は富士通所属。大学4年の2015年から5年連続で日本選手権20km競歩優勝。2016年リオ五輪同種目代表。

高橋英輝

陸上 男子20キロ競歩

コロナ禍でTOKYO2020が延期になったことで、少し競技と距離を置く時間ができ、改めて自分が周りの方々の支えによって頑張ることができていると実感しました。

今は、早く安心してスポーツを楽しめる状況になることを祈りながら、「支えていただいた方々と一緒にスタートラインに立ちたい、感謝の気持ちをパフォーマンスで表現したい」という思いで練習に取り組んでいます。

最大の目標にしてきた大会が延期となり、練習に気持ちを持っていけない時期もありましたが、時間ができたことで、これまで結果にこだわり過ぎてないがしるにしてきた身体の動きなどの問題点が整理でき、タイムの向上につながりました。

自分の武器は、ハイペースへの対応力とラストスパートです。他の競歩種目代表選手と強化合宿を行い、互いに刺激し合いながら良い状態を維持して調整できています。

故郷・岩手の皆さんをはじめ、支えていただいている方々に最高のレースをお見せしたいと思っています。ご声援よろしくお祈りいたします。

ホッケー女子

瀬川真帆

2019年に大きな手術をしたので、TOKYO2020の1年延期はしっかりがと向き合える時間ができ、自分にとってはプラスだったと思います。

コロナ禍でできないことに目を向けることよりも、できることを探すように気をつけ、ストレスがかかった時はその気持ちに素直に従う道を選んでいました。

代表合宿では実際のオリンピックの試合を想定しての実戦練習中心ですが、トレーナーからティングなどの指導を受け、痛みを抑えてプレーできています。

(無観客や観客制限になると)今まで応援してくださったみなさんと同じ空間、同じ熱量でその瞬間を味わえないのは寂しいですが、この環境の中でオリンピックを開催していただければそのことに感謝すべきだと思います。

チームとしての目標はもちろん金メダル獲得！そのため私のストロークポイントである走力で、状況判断を生かしたチャンスメイクと相手の攻撃の目を潰すディフェンス力で貢献したいと思っています。岩手で生まれ育ち、たくさんの方に支えられて今、日本代表として闘うことができます。皆さんに、少しでも恩返しができるよう頑張ります！



profile

瀬川真帆(せがわ・まほ)

1996年6月23日生まれ、岩手町出身。岩手町立川口中学校、岩手県立沼宮内高等学校を卒業。ソニーHC Bravia Ladiesを経て、現在は東京ヴェルディホッケーチームに所属。高校時代に2014山梨インターハイ優勝を果たし、ソニーHC Bravia Ladiesでも全日本女子選手権3連覇や日本代表として2018アジア競技大会優勝に貢献した。ポジションはMF。



profile

田中海渡(たなか・かいと)

1995年11月1日生まれ、岩手町出身。岩手町立一方井中学校、天理高校、天理大学を卒業。2018年の第18回アジア競技大会で優勝後にスペインでの武者修行を経て、現在は表示灯フラテルホッケーチームに所属、ポジションはMF。

田中海渡

ホッケー男子

4月のマレーシア遠征で格上のマレーシア、グレートブリテンと親善試合を行い、良い結果を残すことができました。久しぶりの国際試合で、合宿で取り組んできたことを試せましたし、課題を見直す機会にもなりとても良かったと思います。

僕自身のコンディションも良くて、ストロークポイントのハードワークとパスの精度に磨きをかけながら、遠征で見つけた課題を改善してさらに上のパフォーマンスができるよう取り組んでいきます。TOKYO2020が1年延期されたことで一時的にチームの士気が下がりましたが、個人、チームともに成長できる期間が増えて、結果的にはプラスになったと思います。

TOKYO2020は僕にとって初めてのオリンピックになります。楽しみたい気持ちはありますが、結果がすべてだと思うので後悔のないように全力でプレーしたいです。

小学生の頃から、ホッケーを続けさせてくれた両親、いつも応援してくれている家族に本当に感謝しています。岩手町、岩手県の皆さんの応援がパワーになっています。もちろんオリンピックでは金メダルを目指します。応援よろしくお祈りします。

ホッケー女子

及川栞

「及川選手が所属する東京ヴェルディホッケーチーム小林真由美監督の談話(5月24日取材)」

日本代表は2017年から代表監督を務めてきたアンソニー・フアリー氏に代わって、昨年12月からスペイン出身のチャビ・アルナウ監督を迎えました。限られた時間の中で新監督との信頼関係を構築していくのは難しいものがあるかと思いますが、選手一人ひとりの考えや、想いの共有、すべてにおいて「チーム」を優先した意識があれば、短期間でも、より強く、固い絆をもって戦い抜くことができると思います。

及川選手のストローク能力、プレーの正確さ、フィジカルは、代表メンバーの中でもナンバーワンとあっていいと思います。体を張ったDFとしてのプレーだけでなく、攻撃面でも得点のチャンスを生み出せる素晴らしい選手です。オランダでの経験を活かし、強豪相手にも臆せず代表チームをリードしてくれることを期待しています。

さくらジャパン悲願のメダルを獲得してくれることを心から祈っています。

※小林監督はこの2月に代表を引退したが、DFとして2008年北京五輪、2016年リオ五輪に2大会出場したホッケー界のレジェンド。



profile

及川栞(おいかわ・しほり)

1989年3月12日生まれ、岩手町出身。岩手町立沼宮内中学校、岩手県立不來方高等学校、天理大学卒業。ソニーHC Bravia Ladies、オランダ1部リーグHC Oranje-roodを経て、現在は東京ヴェルディホッケーチーム。岩手めんこいテレビ所属。ポジションはDF。

陸上 女子短距離

大石沙也加

5月にポーランドで開催された世界リレーはふくらはぎの肉離れで残念ながら出場を辞退しましたが、今は90%以上回復しています。今月の日本選手権で五輪派遣標準記録を突破して優勝すれば、4x400メートルリレーメンバーに内定します。

2017年にアキレス腱を断裂したときは引退も考えましたが、3年かかって去年の日本選手権では自己ベストを更新し、表彰台に返ることができました。まだまだ自己ベストを更新できる手応えを感じていますし、私にとってオリンピックの延期はプラスしかありません。

ただ、皆さんに応援してもらってこそそのスポーツの祭典だと思っているので、国民が不安を持つ中で開催には疑問もあります。しっかりとした感染対策を講じていただきながらオリンピックが開催されることを願っています。

岩手を離れて7年経ちますが、岩手県代表として出場する国体は年に一度の楽しみです。夏場は盛岡冷麺と滝沢産のスイカを食べながら練習に励んでいます。

「諦めなければ夢は叶う」というメッセージを、岩手の子どもたちに届けられるよう頑張ります。



profile

大石沙也加(おおいし・さやか)

1991年3月11日生まれ、滝沢市出身。岩手女子高等学校、岩手大学を経て、(株)セレスポ所属。2013年の東京国体では400メートルリレーのアンカーとして、岩手県の初優勝に貢献した。